

研究代表者・研究分担者

氏名	所属・職
小関 隆志(こせき・たかし) * 研究代表者	明治大学 経営学部 教授
佐藤 順子(さとう・じゅんこ)	佛教大学 専門職キャリアサポートセンター 専任講師
角崎 洋平(かどさき・ようへい)	日本福祉大学 社会福祉学部 准教授
野田 博也(のだ・ひろや)	愛知県立大学 教育福祉学部 社会福祉学科 准教授
吉中 季子(よしなか・としこ)	神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 社 会福祉学科 准教授

科研概要

- 基盤研究B

- 研究課題 「日本に住む外国人に対する金融包摂の方策」
- 小区分 社会福祉学関連
- 研究期間 4年間(2021～2024年度)

- 研究費(直接経費)

- 総額13,100千円
- 2021年度(1年目)3,900千円
- 2022年度(2年目)3,900千円
- 2023年度(3年目)3,700千円
- 2024年度(4年目)1,600千円

今回の科学研究の趣旨

小関科研(2016-2018)

* 小関・佐藤・角崎・野田

- ◆ 日本における金融排除の実態調査
- ◆ 主に生活困窮者層を対象

大原社会問題研究所雑誌

738 2020.4

【特集】生活困窮と金融排除

特集にあたって	小関隆志	1
世界と日本の金融排除・金融包摂の動向	小関隆志	3
低所得者世帯の金融排除と金融ウェルビーイング	角崎洋平	19
母子生活支援施設利用者にみる金融排除	佐藤順子	37
「最低限身に付けるべき金融リテラシー」と機会	野田博也	52

生活困窮と金融排除

生活相談・貸付事業と家計改善の可能性

小関隆志
編集



佐藤科研(2018-2020)

* 佐藤・角崎・野田

- ◆ 家計相談支援におけるソーシャルワーク

角崎科研(2019-2022)

野田科研(2020-2023)

- ◆ 貸付制度と金融リテラシー・ケイパビリティ

吉中科研(2006-)

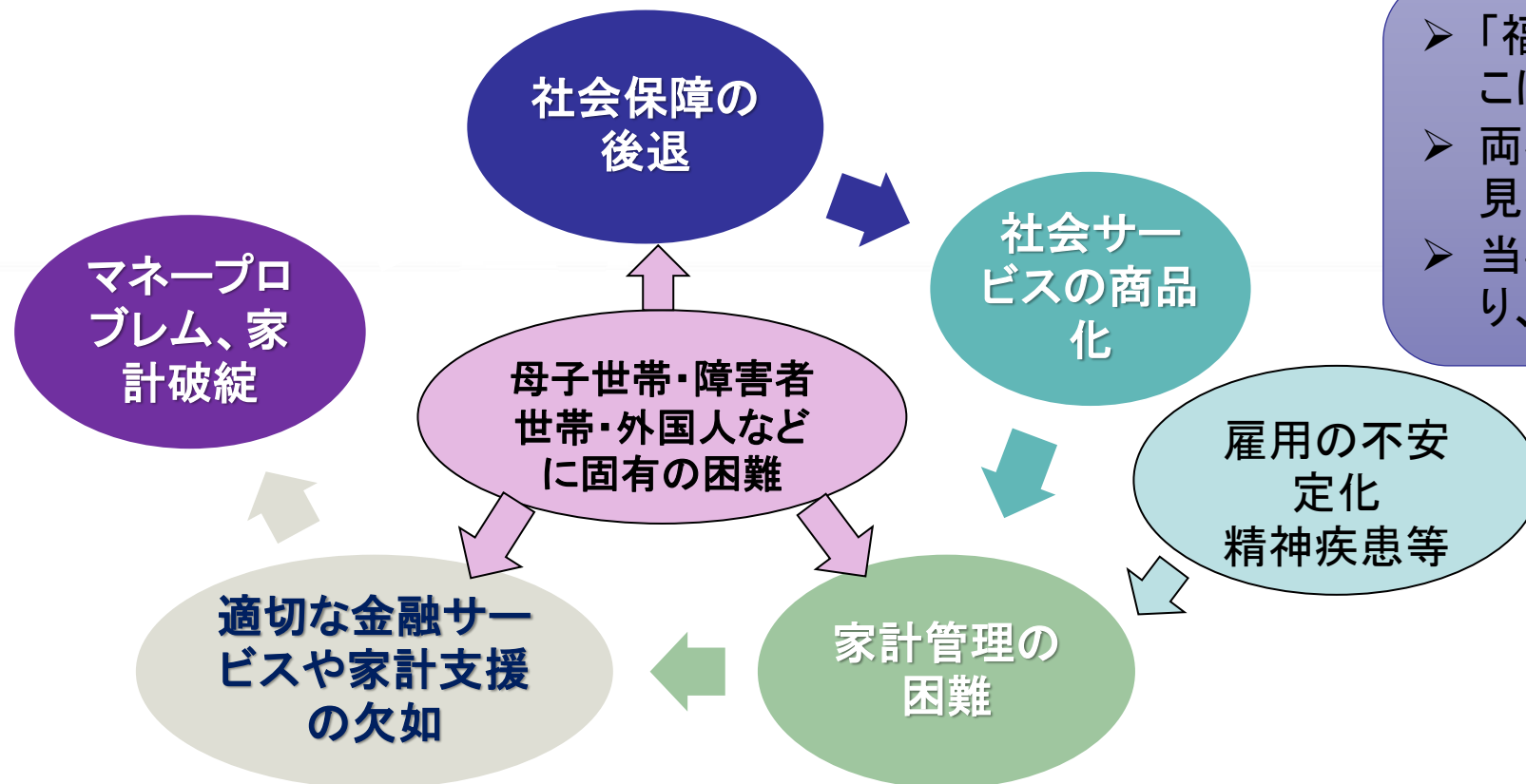
- ◆ DV被害者に対する支援
- ◆ 単身女性の貧困問題

今回の科学研究(2021-2024)

- ◆ 日本に住む外国人に焦点
- ◆ 家計管理・金融排除と社会的排除の関連性を解明

「福祉」と「金融」の架橋なるか？

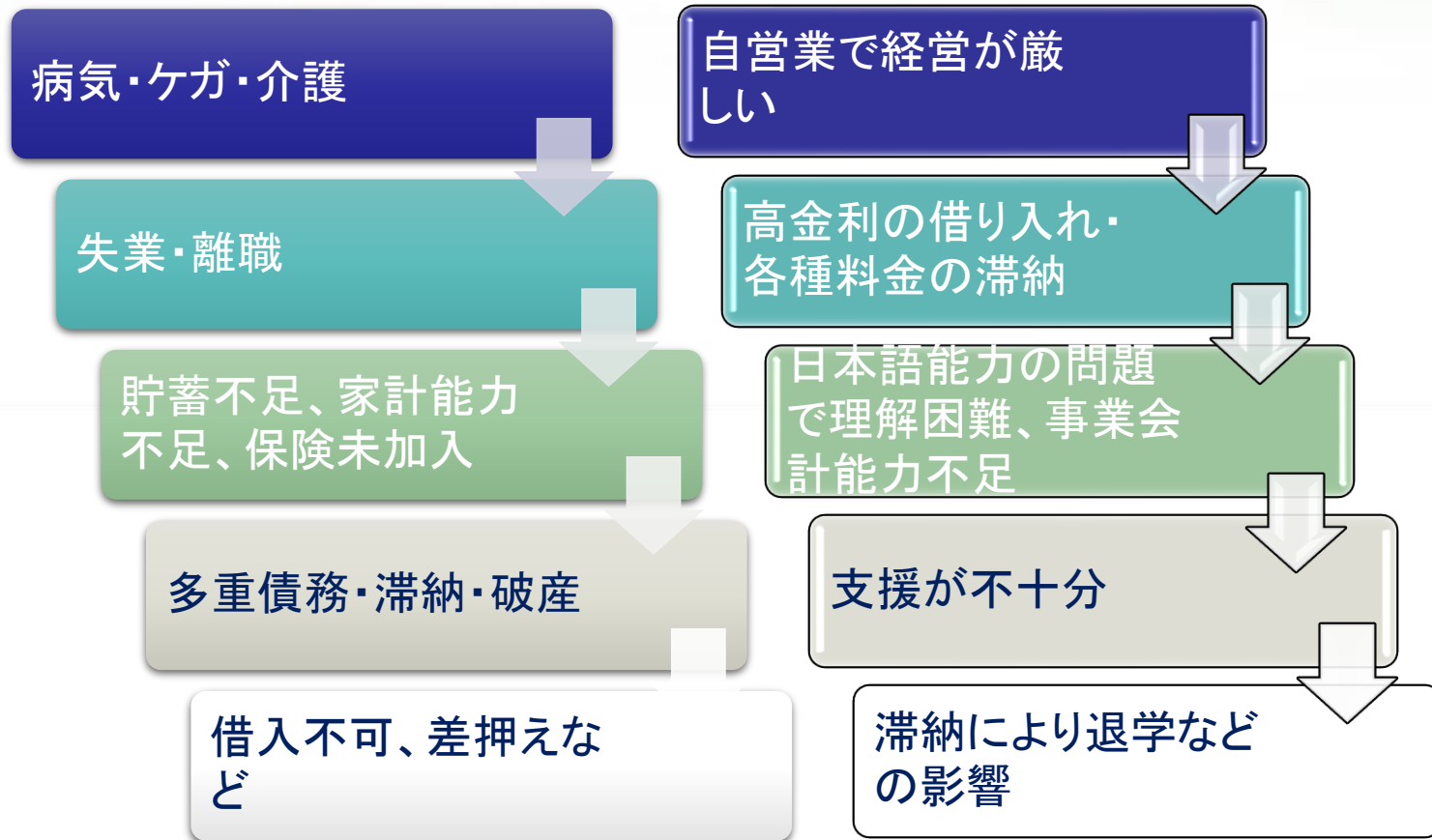
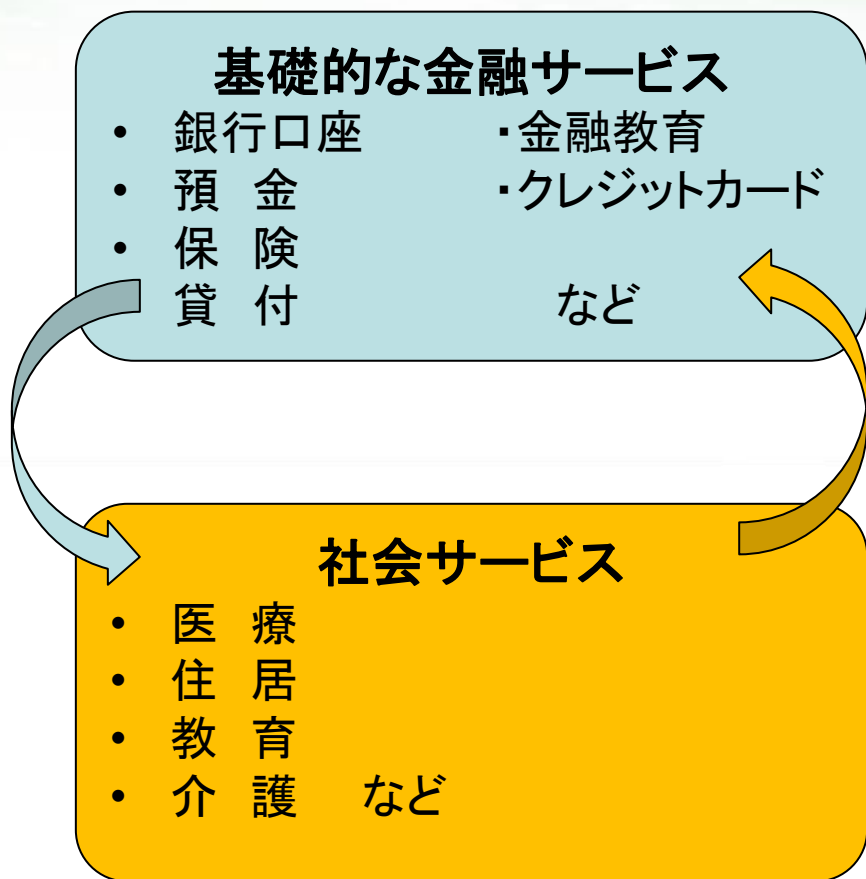
- 福祉と金融は異分野(というか異次元の世界のイメージ)、学際的な研究が乏しい
- 社会保障・福祉・家計・金融サービスは、実生活では密接に関連し、相互に影響をもたらしている



- 「福祉」と「金融」の接点がどこにあるのか
- 両者を結びつけることで何が見えてくるのか
- 当事者にどのような利点があり、実践にどう役立つのか

日常生活を支える基礎的なインフラとしての金融サービス

貧困・社会的排除と金融排除の相互作用



研究体制・研究課題・スケジュールのイメージ

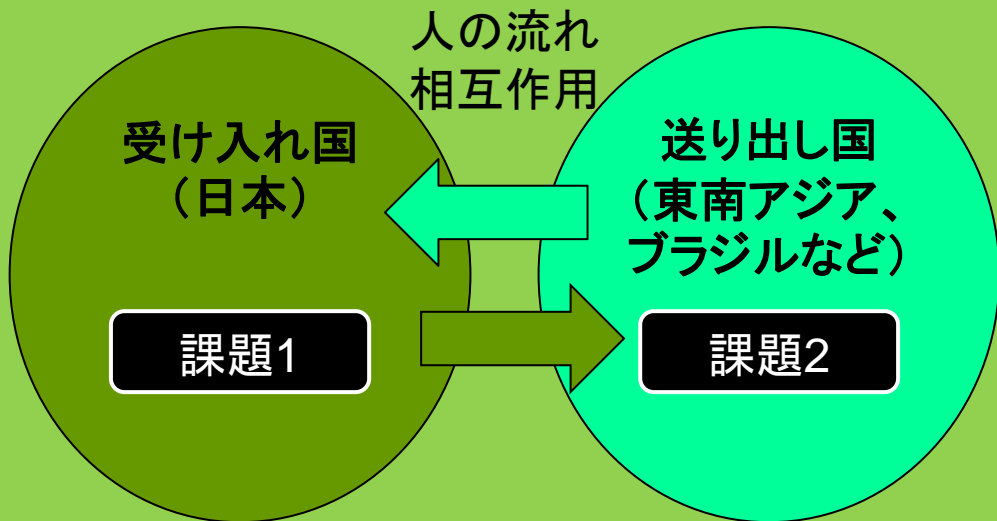
ガバナンス⇐	運営会議（研究代表者・研究分担者）⇐						
研究課題⇐	課題1 国内の外国人労働者・留学生⇐			課題2⇐	課題3⇐		
	(1) 金融サービス提供による効果⇐	(2) 困窮者への緊急支援・公的貸付⇐		送り出し国の課題⇐	国内の外国人母子世帯への支援⇐		
研究者の責任分担⇐	小関⇐		角崎⇐		小関⇐		佐藤・吉中⇐
	野田（各課題における金融リテラシー関連）⇐						
協力機関⇐	(株)GTN⇐	第一勧信⇐	反貧困ネットワーク⇐	社協・自治体⇐	(株)KMC⇐	フランス視察⇐	母子生活支援施設⇐
1年目⇐	■	■	■	⇐	■	⇐	■
2年目⇐	■	■	■	⇐	■	■	■
3年目⇐	■	■	⇐	■	⇐	⇐	■
4年目⇐	■	⇐	⇐	■	⇐	⇐	■

母子生活支援施設のほか、婦人保護施設や、地域の母子世帯支援組織も含まれるが、スペースの都合上省略

3課題の全体像

日本に住む外国人の金融排除の実態／金融包摂の方策

外国人労働者・留学生



外国人母子世帯

課題3

日本の状況

フランスの
先駆的事例

日本への示唆

課題1: 国内の外国人労働者・留学生

国内の外国人労働者・留学生

困窮度の低い外国人労働者・留学生

担当 小関

協力機関: GTN・第一勧信

適切な金融サービスにアクセスできているか、現状と課題を調査

口座開設、海外送金、住居探し、家賃保証、就労あっせん、生活相談の包括的提供で効果を検証(3-4年間追跡調査)

課題1A・1B

困窮している外国人労働者・留学生

協力機関: 反貧困ネットワーク

担当 角崎

協力機関: 社協・自治体

民間(市民団体)による緊急支援事業の実績から、困窮した外国人の家計状況と金融面の課題を探る

課題1C

社協・自治体による公的貸付の実績から、困窮した外国人の家計状況と、公的貸付制度の課題を探る

課題1D

課題2 送り出し国の課題

労働者・留学生の送り出し国における 金融リテラシー・ケイパビリティ面の課題と解決策

担当 小関・野田

協力機関: かいほつマネジメント・コンサルティング(KMC)

金融リテラシー、金融教育の現状把握

労働者・留学生が金融に関してどのような価値観や行動パターンを持ち、金融に関する知識を有しているか、渡航前に金融教育を受けているのかを調査

金融教育の試行

労働者・留学生に対して渡航前に金融リテラシー教育を試行し、その効果を検証する

課題3 国内の外国人母子世帯への支援

外国人母子世帯への支援

国内の外国人母子世帯の調査

担当 佐藤・吉中

母子世帯支援施設・婦人保護施設、母子世帯支援組織での調査

外国人母子世帯の認識や抱える困難／母子世帯に対する家計改善支援の取り組みを調べる

協力機関: 全母協

担当 野田

母子世帯に対する金融教育の試行

外国人母子世帯を対象に金融教育教材を開発し、教育を試行して、その有効性を検証する

フランス視察

担当 佐藤・吉中

母子生活支援施設、母子世帯支援組織、家計・家族問題調停機関(UDAF: Union départementale des associations familiales) 等を視察する

⇒フランスの先駆的な実践事例から日本への示唆を得る